

# 平成25年度埴町上水道事業会計決算審査意見書

平成26年9月8日

埴町長 菊池基文様

埴町監査委員 石川昭彦

同 大縄武夫

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき審査に付された平成25年度埴町上水道事業会計決算を審査した結果、次のとおり意見を提出します。

## 1 審査の対象

平成25年度埴町上水道事業会計決算

## 2 審査の期間

平成26年7月15日から平成26年8月11日まで

## 3 提出を受けた書類

平成25年度埴町上水道事業会計決算書

ア 平成25年度埴町上水道事業決算報告書

イ 財務諸表

ウ 平成25年度埴町上水道事業報告書

エ 附属書類

## 4 審査の概要

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属書類について、関係法令に準拠して作成されているか、数値に誤りがないか、当事業の経営成績及び財務状態を的確に把握し表示されているかについて必要と思われる審査手続きを用いて検証した。また、事業経営に当たり経済性の発揮や公共の福祉の増進が図られているかについても意を用い審査した。

なお、現金預金の残高確認及び通帳・証書類の検証については別に例月現金出納検査において実施し、その結果も踏まえて審査した。

(1) 事業状況について

事 項	単 位	平成25年度	平成24年度	比較		備 考
				増減	増減率(%)	
給 水 人 口	人	6,892	6,986	△ 94	△ 1.3	年度末現在
給 水 世 帯 数	世帯	2,487	2,502	△ 15	△ 0.6	年度末現在
普 及 率	%	72.2	73.7	△ 1.5		行政区域内人口割合
給 水 量	m <sup>3</sup>	801,005	794,877	6,128	0.8	年間総量
有 収 水 量	m <sup>3</sup>	614,063	606,597	7,466	1.2	年間総量
有 収 率	%	76.7	76.3	0.3		(端数調整のため増減が合わない)
1m <sup>3</sup> 当たり給水収益 (供給単価)	円	150.68	150.47	0.21	0.1	給水収益/有収水量
1m <sup>3</sup> 当たり給水原 価	円	352.43	334.95	17.48	5.2	(経常費用-受託工事費)/有収水量

給水人口は、前年度と比較して94人（△1.3%）減少、給水世帯数も、15戸（△0.6%）減少している。年間総給水量は801,005m<sup>3</sup>で前年度と比較して6,128m<sup>3</sup>（0.8%）の増となった。

年間有収水量については、614,063m<sup>3</sup>で前年度と比較して7,466m<sup>3</sup>（1.2%）の増となり、有収率は、76.7%と前年をわずかに上回った。

(2) 収支決算書（仮受消費税及び地方消費税を含む）

ア 収益的収入及び支出

区 分		平成25年度	平成24年度	比較増減
収 入	営 業 収 益	97,798,989	96,612,194	1,186,795
	営 業 外 収 益	135,132,619	142,320,282	△ 7,187,663
	特 別 利 益	131,100	6,730	124,370
	収 益 計	233,062,708	238,939,206	△ 5,876,498
支 出	営 業 費 用	188,697,902	177,346,586	11,351,316
	営 業 外 費 用	30,326,045	27,671,145	2,654,900
	特 別 損 失	533,080	1,927,640	△ 1,394,560
	予 備 費	0	0	0
	費 用 計	219,557,027	206,945,371	12,611,656

本年度の収益的収入の合計は、233,062,708円で昨年度比5,876,498円の減となった。営業収益はわずかながら増加したものの、昨年度あった消費税等の還付（12,738千円）が本年度はなくなったため営業外収益が減少した。

収益的支出は、219,557,027円で12,611,656円増加したが、営業費用で減価償却費の増（16,525千円）、営業外費用で支払利息の増（2,033千円）などによる。

イ 資本的収入及び支出

区 分		平成25年度	平成24年度	比較増減
収 入	企 業 債	0	299,600,000	△ 299,600,000
	国 庫 補 助 金	80,104,000	147,723,000	△ 67,619,000
	他 会 計 補 助 金	135,724,000	0	135,724,000
	収 入 計	215,828,000	447,323,000	△ 231,495,000
支 出	建 設 改 良 費	273,159,254	464,625,010	△ 191,465,756
	企 業 債 償 還 金	61,699,830	58,956,755	2,743,075
	支 出 計	334,859,084	523,581,765	△ 188,722,681
収支差引額		△ 119,031,084	△ 76,258,765	△ 42,772,319

資本的収入の合計は、215,828,000円で前年度比231,495,000円の減となった。埴第1水源浄水場の本体工事の完成により国庫補助金及び企業債が減少したことによる。なお、本年度の資本的収入は、国庫補助金、一般会計からの補助金（地域の元気臨時交付金）の

みで企業債は発行していない。

資本的支出の合計は、334,859,084 円で、前年度比 188,722,681 円の減となった。前述のとおり埴第1水源浄水場が完成し建設改良費が大幅に減少したためである。

この結果、資本的収支の差引収支額は△119,031,084 円となり前年度に比べ差引不足額が 42,772,319 円増加した。この資本的収支の差引不足額 119,031,084 円は、次表のとおり自己資金（消費税の資本的収支調整額 2,009,587 円、現金支出を伴わない内部留保資金である減価償却費 117,021,497 円）によって補てんされる。

補てん財源内訳	当年度留保額	補てん可能額	当年度補てん額	補てん財源残額
消費税等資本的収支調整額	0	2,009,587	2,009,587	0
損益勘定留保資金	104,281,380	121,733,115	117,021,497	108,992,998
利益剰余金	27,841,417	11,496,094		39,337,511
計	132,122,797	135,238,796	119,031,084	148,330,509

## (3) 損益計算書

区 分	25年度	24年度	比較増減	増減率
	千円	千円	千円	%
営業収益	93,160	92,038	1,122	1.2
給水収益	92,528	91,277	1,251	1.4
その他営業収益	632	761	△ 129	△ 17.0
営業費用	186,708	175,511	11,197	6.4
原水及び浄水費	24,313	23,468	845	3.6
配水及び給水費	5,939	7,396	△ 1,457	△ 19.7
総係費	33,217	39,439	△ 6,222	△ 15.8
減価償却費	121,733	105,208	16,525	15.7
その他営業費用	1,506	0	1,506	
営業利益	△ 93,547	△ 83,473	△ 10,074	△ 12.1
営業外収益	135,131	130,581	4,550	3.5
営業外費用	29,705	27,671	2,034	7.4
経常利益	11,879	19,436	△ 7,557	△ 38.9
特別利益	125	7	118	
特別損失	508	1,836	△ 1,328	△ 72.3
当年度純利益	11,496	17,607	△ 6,111	△ 34.7
前年度繰越利益剰余金	1	4	△ 3	
当年度未処分利益剰余金	11,498	17,611	△ 6,113	△ 34.7

営業収益は、有収水量の増により前年度をわずかながら上回った。これに対し、営業費用は、総係費(人件費)が減少したものの減価償却費が増加したため営業損益では赤字が拡大した。

## (4) 貸借対照表

(単位：千円、%)

		科目	25年度	24年度	増減額	増減率	
資産	固定資産	土地	33,663	33,663	0	0.0	
		建物・構築物	2,465,989	2,319,428	146,561	6.3	
		その他	267,148	276,060	△ 8,912	△ 3.2	
		小計	2,766,800	2,629,151	137,649	5.2	
	流動資産	現金・預金	136,026	345,149	△ 209,123	△ 60.6	
		未収金	16,706	34,069	△ 17,363	△ 51.0	
		その他	422	439	△ 17	△ 3.9	
		小計	153,154	379,657	△ 226,503	△ 59.7	
	合計			2,919,955	3,008,807	△ 88,852	△ 3.0
	負債	未払金		2,226	246,425	△ 244,199	△ 99.1
その他			600	600	0	0.0	
計			2,826	247,025	△ 244,199	△ 98.9	
資本	資本金		1,822,641	1,884,341	△ 61,700	△ 3.3	
	剰余金		1,094,488	877,441	217,047	24.7	
	計		2,917,129	2,761,782	155,347	5.6	
負債資本合計			2,919,955	3,008,807	△ 88,852	△ 3.0	

## ア 資産について

固定資産は、埴第1水源浄水場更新工事などにより、前年度に比べ137,649千円(5.2%)増加し、2,766,800千円(土地や施設など有形固定資産 2,764,928千円、電話加入権など無形固定資産 1,872千円)となった。

流動資産は153,154千円(現金・預金 136,026千円、水道料未収金など未収金 16,706千円、水量計などの貯蔵品422千円)である。埴第1水源浄水場更新工事費の支出に伴い現金・預金が前年度より大きく減少した。

## イ 負債について

負債の総額は、2,826千円(未払金 2,226千円、その他の流動負債(金融機関の担保金) 600千円)である。

## ウ 資本について

資本の総額は2,917,129千円(資本金 1,822,641千円、剰余金 1,094,488千円)で前年度より155,347千円増加した。資本金の内訳は、自己資本金 674,776千円、借入資本金(企業債) 1,137,854千円、引継資本金 10,011千円で、剰余金の内訳は、資本剰余金(補助金) 1,055,150千円、利益剰余金 39,338千円である。

(5) 滞納未収金（6ヶ月以上未収）及び不納欠損の状況

区 分	平成25年度			平成24年度			平成23年度		
	人数	件数	金額(千円)	人数	件数	金額(千円)	人数	件数	金額(千円)
未収給水収益		2,206	16,686		2,202	21,271		2,227	23,297
滞 納 未 収 金	16	94	1,282	32	118	3,364	36	102	2,972
うち不納欠損額	9	23	102	3	18	1,792	9	11	253
差 引 残 額	7	71	1,180	29	100	1,572	27	91	2,719

未収給水収益は、16,686千円であったが、そのうち納期限から6ヵ月以上経過した滞納未収金は、1,282千円（94件）で前年度に比べ2,082千円（24件）減少している。このうち、102千円（23件）は不納欠損処分しているので翌年度繰越の滞納未収金は1,180千円（71件）である。

(6) 企業債の状況

(単位:千円)

区分	前年度末残高	当年度発行額	当年度償還額		今年度末残高	残高増減
			元金	利子		
企業債	1,199,553	0	61,700	29,694	1,137,853	△ 61,700

今年度末における企業債残高は1,137,853千円で、前年度に比べ61,700千円減少している。

# 主な経営指標

指標	単位	25年度	24年度	24年度平均	算出式	概要
1. 事業の概況						
普及率(対行政区内人口)	%	72.2	72.1	58.5	現在給水人口 / 行政区内人口 × 100	埤町に占める水道利用人口の割合
平均有収水量	ℓ	244	238	331	1日平均有収水量 / 現在給水人口	一人当たりの水道使用量
有形固定資産減価償却率	%	10.9	7.6	34.8	有形固定資産減価償却累計額 / 有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価	償却資産の減価償却の進み具合
2. 施設の効率性						
施設利用率(対施設能力)	%	54.7	54.3	48.9	1日平均配水量 / 配水能力 × 100	配水能力に対する配水量の割合
最大稼働率	%	72.9	74.1	66.4	1日最大配水量 / 配水能力 × 100	配水能力に対する最大配水量の割合
有収率	%	76.7	76.3	78.7	年間総有収水量 / 年間総配水量 × 100	配水量のうち収益につながった割合
固定資産使用効率	m <sup>3</sup> /万円	2.6	2.8	5	年間総配水量 / 有形固定資産	有形固定資産に対する年間総配水量の割合
配水管理使用効率	m <sup>3</sup> /m	10.1	10.0	11.3	年間総配水量 / 配水管延長	配水管総延長に対する年間総配水量の割合
3. 料金水準						
給水原価	円/m <sup>3</sup>	352.43	334.95	187.4	(経常費用 - (受託工事費 + 材料等売却原価 + 付帯事業費)) / 年間総有収水量	1m <sup>3</sup> の水を作るのにかかる費用
供給単価	円/m <sup>3</sup>	150.68	150.47	173.6	給水収益 / 年間総有収水量	1m <sup>3</sup> の水の平均収入額
料金回収率	%	42.8	44.9	92.6	供給単価 / 給水原価 × 100	給水費用がどの程度水道料金で賄われているかを示す。
供給原価率	%	2.34	2.23	1.08	給水原価 / 供給単価	給水費用が水道料の何倍にあたるかを示す指数
4. 経営の安定度						
総収支比率	%	105.3	108.6	102.9	総収益 / 総費用 × 100	経営収支の均衡度を表す。
経常収支比率	%	105.5	109.6	103.8	(営業収益 + 営業外収益) / (営業費用 + 営業外費用) × 100	経常的収支の均衡度を表す。100%未満は経常損失を意味する。
流動比率	%	5419.5	153.7	842.8	流動資産 / 流動負債 × 100	短期債務に対する支払い能力100%以下は不良債務発生を示す。
企業債元金償還金対減価償却額比率	%	50.7	56.0	72.8	建設改良企業債元金償還金 / 当年度減価償却費	100%を超えると減価償却費から建設改良費の補てん財源が不足する。
自己資本構成比率	%	60.6	51.6	66.7	(自己資本 + 剰余金) / 総資本 × 100	総資本に占める自己資本の割合
固定資産対長期資本比率	%	94.8	95.2	88.9	固定資産 / (資本金 + 剰余金 + 固定負債) × 100	固定資産が、どの程度自己資本等で調達されているかを示す。100%以下で低いことが望ましい。

※24年度平均：平成24年度経営指標（総務省）



## 5 審査意見

### (1) 審査結果

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、経営成績及び財務状態を適正に表示されているものと認める。

### (2) 業務実績

給水人口・世帯とも減少する中で給水量及び有収水量はやや増加し有収率も僅かながら上昇改善した。しかし供給原価率（給水原価／供給単価）は2.34と上昇悪化している。

水道設備の整備更新においては水道再編事業として第一配水池の更新工事ほか4事業が円滑に遂行された。

### (3) 予算執行状況

収益的収支の収入は営業収益、営業外収益合わせて当初予算を約7百万円上回り、支出は4百万円下回った。

また、資本的収支においては収入で企業債を利用せず町補助金等で補ったため当初予算を35百万円下回り、支出はほぼ予算どおりであった。

### (4) 損益の状況

給水人口・世帯が減少する中で給水量、有収水量が伸びたことにより営業収益は少額ながら増加を見た。一方、営業費用では総係費等一般経費が節減されたものの減価償却費の大幅負担増をカバーできず営業損益は前年度比10百万円減益となり94百万円の赤字であった。この結果、町補助金の増額もあったが経常利益12百万円、当期純利益11百万円で共に減益となった。

### (5) 資産負債及び資本の状況

埴第1水源浄水場設備の更新により固定資産は138百万円増加した。前年度末計上した同工事代未払金が支払準備預金にて今年度決済されたため流動資産、負債ともに減少し、資本の部では借入資本金が償還により減少したが剰余金が補助金収入により増加した。

※なお、公営企業会計制度の改正により平成26年度分より借入資本金勘定は資本の部から負債勘定へ移行されることになった。

## 6 まとめ

人口減少や節水型社会の定着により水需要の増加は期待できないし、料金の値上げも困難であり今後の給水収益の拡大は見込めない状況にある。また営業収支の不採算を補う補助金も国及び自治体の財政状況からみて今後多くは望めない。このような厳しい経営環境の中で平成26年度からは一般企業会計並みの新公営企業会計制度が導入され、経営の健全性、自立性が明確にされるところである。

今後一層の経営効率、採算性が求められることを認識し有収率の向上、経費の節減、計画的な給水施設・設備の更新等を図りつつ引続き安定した給水に努められるよう期待する。